

科目名	心理学 Psychology		担当教員 (研究室番号)	小池 敦 (510)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次 前期	科目区分	教養・基礎科目		選択区分	選択	単位数 (時間)	2(30)	授業形態	講義	科目等履修生	可
											オープンクラス	可
科目目的	心理学は心と行動の諸側面を研究対象としている学問です。この授業では、心理学研究の成果に基づいて、①個体としての人間の心的機能、②心と身体の関係、さらに③他者との関わりとの側面という3つの視点から、人間への理解を深めます。その上で、④看護を中心とする医療・福祉の分野にとって求められる人間理解と心理的側面への援助方法について学びます。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心を理解するためのさまざまなアプローチの方法について知る。</li> <li>2. 機能としての心の働きについて知る。</li> <li>3. 心と脳や身体との関係について理解する。</li> <li>4. 他者との関わりの中で生じる心理について理解する。</li> <li>5. さまざまな心理的援助方法について知る。</li> <li>6. 看護職者として患者の心を理解するための関わりについて考えられるようになる。</li> </ol>											
成績評価方法 (基準)	期末試験 (100%)											
再試験の有無と基準等	科目合否結果で不合格となった者のうち期末試験で不合格となった者に対しては再試験を実施する。再試験は期末試験と同様に行う。											
教科書	櫻村正美・野村俊明編著「医療系のための心理学」講談社											
参考書等	必要に応じて適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	「こころ」は最も身近でありながら、不可思議なものです。日々の生活の中で、まずはじっくりと自分自身を眺め、次に友人・家族など周囲の人々を見渡し、社会との繋がりを考えることが、心理学の学習にとって大切です。さまざまな人間観や価値観に触れながら、自らの視野を広げていけるように、積極的に関心をもって授業に臨んで下さい。											
備考												
回	学習項目	学習内容								主担当教員	授業方法	
1回	イントロダクション	看護学と心理学の関係をテーマとして、看護を学ぶ者が心理学を学ぶことの意義について考える。								小池	講義	
2回	心理学の歴史と研究方法	過去から今日に至るまで、心理学研究がどのようになされてきたか学ぶ。さらに、代表的な心理学研究方法としての実験法、質問紙法、観察法、面接法について理解する。								小池	講義	
3回	感覚・知覚	外的世界である環境から、どのように情報を受け取り、認識するのか、感覚器官の性質、知覚の特性について学ぶ。(教科書 第1章)								小池	講義	
4回	学習・行動	行動に焦点を当て、本能行動、初期経験、条件づけ、社会的学習など、行動が生じる原理について学ぶ。(教科書 第2章)								小池	講義	
5回	注意・記憶	人が外的刺激を効率的に選択する働きとしての注意の過程、さらに選択された情報を蓄える働きとしての記憶過程、記憶の種類などについて学ぶ。(教科書 第3章)								小池	講義	
6回	言語・思考	心を形作る基本的な側面としての言語、思考、知能について理解を深めるため、単語認知、文章理解、問題解決、推論などについて学ぶ。(教科書 第4章)								小池	講義	
7回	感情・動機づけ	感情の種類、情動生起のメカニズム、動機の種類、コンフリクトなど、心の反応ともいえる情動と動機づけについて学ぶ。(教科書 第5章)								小池	講義	
8回	パーソナリティ	類型論、特性論などのパーソナリティ理論、パーソナリティ形成に関わる要因、人格障害などについて学ぶ。(教科書 第7章後半)								小池	講義	
9回	社会心理	個人として、他者との関わりの基本となる対人認知、対人魅力、態度などについて学ぶとともに、集団における心理として、社会的促進と抑制、同調行動、集団心理などについて理解を深める。(教科書 第6章)								小池	講義	
10回	ストレス反応と対処行動	ストレスの種類、ストレスに対する生体の反応、対処行動など、ストレス事態における生体の反応について学ぶ。(教科書 第10章前半)								小池	講義	
11回	心理アセスメント	形のない「こころ」を捉えるための方法として開発されてきた心理アセスメントについての理解を深める。(教科書 第7章前半・第10章前半)								小池	講義	
12回	脳と心の関係	失語症、失行症、失認症など脳の損傷によって生じる障害から、脳と心の関係について理解を深める。								小池	講義	

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
13回	心の病と心理的援助方法	心の病についての理解を促すとともに、精神分析、来談者中心療法、認知行動療法など、さまざまな心理援助方法について理論的背景と具体的な方法を学ぶ。(教科書 第9章後半 第10章後半)	小池	講義
14回	健康行動	人の健康を維持・向上させるための働きかけに注目し、行動変容を促す理論について学ぶ。(教科書 第10章後半)	小池	講義
15回	まとめ	これまでの講義内容を振り返りながら、心理学が提供する知見をもとに、看護職者として患者をケアすることについて考察を深める。	小池	講義

学 習 課 題

毎回の講義の前に該当する教科書の章に目を通しておくこと。

第3回課題（事後）：ICU症候群について調べまとめておく。

第4回課題（事後）：日常生活の中でみられる学習について具体例を挙げ、学習理論で説明できるようにしておく。

第8回課題（事前）：パーソナリティ障害について調べておく。

第10回課題（事後）：看護職者のバーンアウトについてまとめておく。

第12回課題（事後）：高次脳機能障害に対する看護ケアの方法についてまとめる。

第13回課題（事後）：看護職が活用している心理援助法についてまとめておく。

実務経験を活かした教育の取組